



110号
2006/1/1

日中文化交流市民サークル 'わんりい'

東京都町田市能ヶ谷町1521-58 田井方

〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100

<http://wanli.web.infoseek.co.jp/>

Eメール:wanli@m2.ocv.ne.jp

ホームページは毎月5日頃までに更新を務めています。

新年明けましておめでとうございます



撮影：大川健三

ギャロン・チベット族の少女。ギャロン・チベット族の多くは山腹を集落に住む。この集落も道路から2時間くらい登った所に在る。(四川省/丹巴県)

'わんりい' 110号の主な目次

北京雑感その1.....	2
中国を読む②【山の郵便配達】.....	3
黄土高原来信第二部「陝北女娃娃」3 菲菲.....	4
「陝北女娃娃 菲菲(原文).....	5
媛媛来信②・「春聯」の話.....	6
香格里拉(シャングリラ)を求めて.....	7
ラオスの山からだより VII.....	9
ピースポート105日間の旅 X.....	10
中国語で歌おう! 1月のお知らせ.....	11
アフリカとの出会い6・アフリカンマーケット.....	12
松本杏花さんの俳句.....	14
チベット族の聖なる山・四姑娘山.....	15
'わんりい'掲示板.....	16
日本スリランカ文化交流協会の紹介.....	16

◆申込み受付中です! 'わんりい'新年会

(対象: 'わんりい' 会員と関係者のみ)

シャツヤンロフ

涮羊肉(羊肉のしゃぶしゃぶ)で新年を祝おう!

— 申込みは 'わんりい'事務局へ —

2006年2月4日(土) 11:00 ~ 14:00

於: 麻生市民館・料理室

参加費: 1500円 (食べ放題/福引あり)

*参加ご希望の方は、メール、電話または葉書で必ずお申込み下さい。(先着: 40名まで)

また、新年がめぐってきました。心新たに新年が良い年でありますよう心から祈りたい昨今ですが、取りあえずは、涮羊肉(羊肉のしゃぶしゃぶ)で新年の英気を養いましょう!!

■'わんりい'へのお問合せはこのページ上方記載の事務局へ

北京で生活して、一番嬉しかったことは、食料品が豊富で、安いことでした。市場に足を踏み入れると、うず高く積まれた野菜や果物が眼に飛び込んできます。積まれた野菜の後ろ側に売り手が並んでいて、よく見ると、各自1間ほどを自分の領分として、並べる種類も、葉物が多かったり、根菜類が主だったり、ナス、キュウリ、トマトなどの類たぐいが中心だったり、珍しい物を集めていたり、一般的な物を満遍なくそろえていたり、様々な特色があるようでした。それでも、隣との境がないので、買うほうから見ると、唯唯、野菜がズラッと並んでいるという印象を受けます。

その売り方は、客に平箆を渡して、好きなだけ入れたところを量りにかけて、目方で幾らと言います。単位はたいてい1斤(500g)で、葉物類だと0.4元位から、トマトが高い時で1.2元、茸類は0.8元位と、季節によって多少の上下はありますが、野菜類をたっぷり5種類くらい買っても、全部で10元(*1元≒15円)になることはありませんでした。

毎日の食材が安く揃えられるのはとてもありがたい事ですが、それにも増して嬉しいのは、果物の種類が多く、美味しく、しかも出回る期間が長いことです。スイカは5月から10月初めまで、桃は6月から10月末まで、値段もあまり変わらずに買うことが出来ます。スイカは1斤0.8元、桃は1.2元くらいでした。桃などは、大きなのを5,6個選んでも、5元以下で買えます。5元といえば、1元15円で計算すると、日本円で75円です。給与水準が違うから、日本での価格と比較するのは無意味だとはよく言われることですが、給与水準の違いを考慮しても不思議に思えるほど安いと思います。

山と積まれた中から、自分でよさそうなのを好きなだけ選んで買えるのは嬉しいことです。山が大きいうちは、形のよい見た目の綺麗なものを選べますが、残り少なくなると、形の悪いものや少し痛んでいるものも出てきます。日本だったらとても店頭に出てこないようなものも、堂々と商品として売られています。中国では、大きさを揃えたり、形の悪いものを除いたりすることはなく、収穫したものをそのまま市場に出して売っているようです。このあたりに安さの秘密があるように感じました。

こんな中国でも、最近、スーパーマーケットで、野菜や果物をパックで売っているのを見かけるようになりました。まだ量は少ないし、高く、品質もあまりよくないので、利用する人は少ないようですが、売り場は着実に広がってきています。せっかくとても良い市場があるのに、だんだん日本が歩んできた道をたどるようになるのかと思うと残念で仕方がありません。少し先を歩く先輩とし

て、パックで売るのは味気ないと言いたいです。それどころか、出来ることなら、日本も、中国の売り方に倣って欲しいところです。農産物は、選んだり揃えたりしないで、収穫したものを全部市場に出せば、生産者にとっては手間が省け、消費者は、生産者の手間が省けた分安く買えるのではないかと思います。「物事、そう単純ではない」との批判もあるでしょうが、この様な方向が合理的だと考えます。

中国で嬉しいことは、食料品の安さと並んで、もう一つ、交通費が安いことです。バスは1元。路線によっては、30分以上乗っていても1元と言うのもありますが、最近増えているのが、空調付きのバスで、これはスタートが2元です。10停留所までは2元、其の後は、5停留所ごとに1元あがります。大抵同じ路線を走る普通のバスがあるので、それよりはほんの少し空いています。また、タクシーは、新車が多くなりましたが、料金は未だに初乗りが10元ですから、気軽に乗ることが出来ます。

「北京の交通事情は快適です」と言いたいところですが、時間帯によって、かなり激しい渋滞にはまってしまうことが間々有りますし、運転は乱暴だし、あまり快適とは言えない状況です。

現在、市内のあちこちで、地下鉄工事をしているので、そのための渋滞もありますが、工事などないのに渋滞しているところもたくさんあります。渋滞の原因を探ってみると、運転者のマナーの悪さと、交通標識の不備があるように見えます。バスに乗っていて、前後左右の車の運転振りを見ると、北京の運転手さん達は「譲る」と言うことを知らないような気がします。バスが停留所に近づいて、歩道よりも斜線変更しようとしてウィンカーを出しても、並行して走っている車はバスを入れません。停留所に来てから、バスは斜めに頭を突っ込んで停車するので、動けなくなってしまうバスや車が出てきます。或は合流地点で、一台ずつ交互に入ればうまくゆくのに、譲り合いがないので、一方はなかなか入れず、我慢できなくなって割り込むと、危うく事故になるような状況で、とまってしまい、渋滞の元になったりします。

また、渋滞箇所や交差点近くでは、歩行者がどんどん押し寄せてきて、車が通れなくなり、渋滞に拍車がかかることがよくあります。この様な状態をバスから見ていて、北京の歩行者はマナーが悪いと思っていたのですが、自分が歩行者となってみたら、隙を見て渡ってくる歩行者の気持ちが分かりました。

北京では、まだ歩行者優先という考え方が浸透していま

せん。ガソリンスタンドから出てくる車は、日本なら歩行者優先で歩道に人がいれば先に通しますが、北京で車より先に行こうとして、危うくぶつかりそうになった事が、2、3度ありました。また、信号も歩行者に対して、あまり親切ではないのです。ところによっては、道幅が広いのに、歩行者の青信号は短くて、私は歩くのがかなり早いと自負しているのですが、それでも、青になったのを確認してわたり始めても、最後の5歩くらいを残して赤に変わってしまいます。もう少し歩くのが遅い方では、道の途中で渡れなくなってしまうでしょう。加えて、右折の自動車は(北京は車が右側通行です)いつでも曲がれます。交差点の歩行者が、信号が青になるのを待って渡り始めても、車が歩行者を無視して、後から後から右折してくるのでなかなか渡れません。そうこうするうちに信号がまた赤になってしまいます。歩行者としては、信号が赤でも、渡れる時に渡っておこうという心境になります。北京では、運転者も歩行者も、度胸が必要と言うことでしょうか。

素人の表面的な観察を基に考えただけでも、北京の交通渋滞緩和策はいくつかあります。

- 1) 運転者に「歩行者優先」の意識をうえつける；
- 2) 右折車に対する矢印信号を設置する(それ以外は右折禁止)；
- 3) 歩行者用青信号を長くする；
- 4) 信号無視を厳しく取り締まる

等々、今すぐにでも出来ることです。北京の広くて立派な幹線道路を見ると、渋滞が発生すること自体不思議な気がします。自動車の増加が激しくても、人と車のマナーが良くなり、交通ルール、標識が改善されれば、今よりもっとも走りやすい北京になることでしょう。

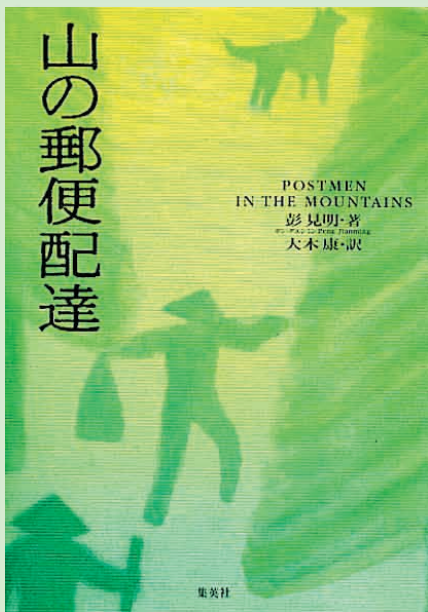
その一方、老人がバスに乗ってくると、座っている若者がすかさず席を譲ってくれます。時には、車掌さんが乗客に声をかけて、席を譲るよう促してくれます。こんな思いやりを発揮できる北京人ですから、運転者、歩行者のマナー教育がいきわたれば、北京市の交通事情は、きっと良くなると期待しています。



中国を読む②9

「山の郵便配達」

彭見明／著 大木康／訳 集英社



映画を見て原作が読みたくなった「山の郵便配達」。2001年の上映時に買ったから、5年近く放置していたことになる。90分以上の映画だったが、原作はわずか34ページの短編小説。「山の郵便配達」に並び、中国の地域

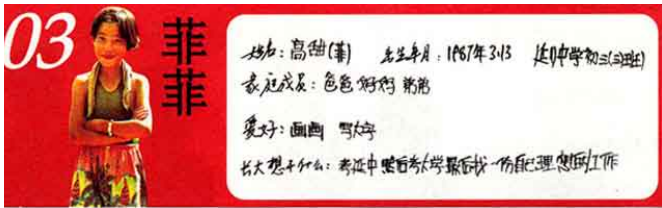
社会にスポットをあてた物語がほかに5編収められている。

経済成長めざましい中国では、日本がかつて体験した、人間関係の変化が生じてきているのだろう。家族や地域間の結びつきが弱くなるなかで、改めて著者は人と人との間に流れる温度を描こうとしている。表題の「山の郵便配達」では、地味だけれど大切な仕事が父から子へ受け継がれている崇高さを、退

職をする父親の繊細な気持ちとともに表現している。「愛情」は不器用な男女が運命のいたずらで結ばれていく、感動を覚えるラブストーリーだ。「沢国」で舞台となる漁村では、途方もなく辛抱を要する仕事が脈々と続いていく雄大さを美しい風景とともに謳いあげた。一方で、「南を避ける」では、時代の流れによって家族の解体がなされていく父親の悲哀をからかうような文体で書いており、一層父親の力のなさを印象づけている。「過ぎし日は語らず」で、尊敬された私塾の師はやがて忘れ去られていくが、彼の教育は浸透し、やがて弟子たちが花開いていく。しかし、打ち切られた教育は、後継者が育っていかないことを暗示している。「振りかえってみれば」に登場するおちぶれた芸術家は、売春婦となった元愛人を馬鹿にするが、結局自分も人を笑えた人間ではないことに気が付く。

人が集まれば、いい話もあれば辛い話もあり、救われることも救いがないこともある。しかし、人が動き、誰かと関わることで感情が生まれ、熱が生じる。中国の片隅で生きる人々の息づかいは、同じように地味だけれども確かに生きている私たちの心に響く。

(真中智子)



姓名: 高甜菲(菲) 出生日期: 1967年3月13日 (初中二年级(初二))
 家庭成员: 爸爸 妈妈 弟弟
 爱好: 画画 写字
 长大想干什么: 考进中央美术学院 做设计师 做工作

菲菲の本当の名前は、高甜菲といいます。初めて菲菲の写真を撮ったのは1997年の、夏真っ盛りのある日でした。その日、私は南塬村に来て、村のあちこちを歩いていますと、男の子たちが道端でなにか騒いで遊んでいました。写真撮影に見知らぬ人が来たと見るや、ひとかたまりになって近づいて来るのをじっと見ています。その中の男の子

が一人、素っ裸で恥ずかしがる風でもなく先頭に立っており、少し大きな女の子が追いかけてきて、彼にズボンを穿かせようとするのですがどうしても穿きません……。

四年後の初夏、このときの写真を懐に再び南塬村にやってきました。すっぽんぼんだったこの男の子には出会えませんでした、海南の

風景をプリントした印象的なショートパンツ姿のお姉さんには会えました。この姉と弟はそれぞれ菲菲と旭旭といい、菲菲はそのとき中学校の三年生で、高校へ進学準備を始めていました。そんなわけでとても勉強家で、夏の間中ずうっと窑洞にこもって勉強しており、旭旭の方は、父親に代わって羊の放牧に行っていました。

何日かして、前回撮影した、菲菲の勉強中の写真を持って南塬村に行き、菲菲の家を訪ねました。菲菲はビックリした様子でしたが、自分が勉強している写真をしげしげと見、満足して、私が渡したアンケートに楽しそうに記入してくれました。けれども、彼女の未来の理想は、“何か自分の理想とする仕事をする”としかありません。あまりに漠然としています。彼女の理想の仕事って、いったいどんなことをするっていうのでしょうか。

この年の秋、再び南塬村に行き、遂に、四年前、すっぽんぼんの裸姿だった旭旭に会えました。旭旭は背が伸びて物分りもよくなり、ひとやすみするようにと私を部屋に招き入れて水を運んで来たりしてくれました。ふと目をやると旭旭が穿いているショートパンツに見覚えがあります。ざっと思いをめぐらせて、それはあの時、菲菲が



穿いていたものだと分かりました。私はからかって、“このパンツはほんとに涼しそうだね。で、裸ん坊のあの写真は どうして額の中に入れてないの？”といいますが、旭旭は口を尖らしたままで何もいいません。菲菲が言いました。“大きくなったからね、恥ずかしいって、写真はしまっちゃったのよ。”それから、私は模様付きパンツを穿いた旭旭を家の脇で写しました。そんな彼に、私が幼い頃の「初めの子は新品で、二人目はお下がり、三番目は縫い繕って着せる」という歳月があったことを思い出させました。私は三番目でしたから、継当ての服を着せられていたことがあります。

その後、縣市(*)で菲菲を見かけ、彼女が“未来の理想の仕事”のために一生懸命勉強していると知りました。学校が休みの日に南塬村に行けば、山の谷で草を食む凡そ50頭ばかりの羊の番をしている旭旭を見ることができました。私は時には旭旭に同道し、彼が羊を追って私のほうに向って来る

写真を撮り写したりしましたが、なかなかいい写真になりました。*県の役所がある町

2003年4月末、私は陕北の仕事が終わり元の仕事に戻るの、陕北を去る前に、写真撮影をするというより別れを言いたいと南塬村にやってきました。ここの子どもたちは皆私とはいい友達になってきましたが、菲菲はよその地域の学校に転校したとの事で見えませんでした。私は言葉を選び、心を込めて旭旭に“しっかり勉強してね、来年又会おうね”と言い聞かせますと、彼はいつもに似ずのお伶俐さんで、黙ってずうっと村の外れまで私を見送ってくれました。

2004年7月、それから一年余りになり、私は又南塬村に足を踏み入れました。と、村の入り口で子どもが“菲菲と旭旭の家は北京に越しちゃったよ”と伝えてくれました。道すがら、菲菲の家の前を通ると、入り口はしっかり閉められ、窓の障子紙は風に吹かれて破れ、荒れて淋しい感じです。旭旭のお祖母さんの家に行きますと、“昨年末に一家で北京に行ってしまった”とのこと。大人は労働者として働き、旭旭は労働者の子どもたちのための学校に入って勉強し、菲菲は勉強を続けているのでしょうか。



旭旭が可愛がっている子羊と一緒に菲菲



窑洞で読書する菲菲

周路：1956年生。中国安徽省合肥市在住。

合肥市群集芸術館学芸員。

木版画家。

陝北の黄土高原に魅せられ、度重ねて赴き、2001年～2003年、陝北延川県文化局副局長に就任し現地に住む。木版画制作のかたわら民間美術研究及び撮影等にも勤しむ。

著書に「陝北婆嫂剪纸」「延川風光」

「画家眼中的黄土高原」「陝北紀実」

他がある。

か、それとも、もう「理想の仕事に就く」という希望を実現したのでしょうか、知る由もありません。老人は“今年のお正月は、電話が掛かってきただけで誰も戻ってこなかった。”とつぶやきました。

“北京の何処なの？住所と電話番号はわかりますか？”重ねて訊ねると、“住所は知らないよ。それにみんな何しているかも！”老人は元氣なく答えました。

貧しくとも、黄土の大地が子どもたちの教育費を生み出し、子どもたちの未来に希望を与えてくれるなら、先祖代々引き継いできた土地を放り出し、故郷に背を向けて、誰一人知る人もなく不案内な都市で生活しようとするでしょうか？生きとし生けるものが住むという、茫々と果てしない人の海のようなあの北京の街で、私は何処に行けばこの姉と弟、二人に会うことができるのでしょうか？

▼原文

菲菲

菲菲学名高甜菲。拍菲菲还得追溯到1997年7月盛夏的一天，我来到高土塬上的南塬村，走至村中，一群男娃在路边戏耍，见有人来照像，便蜂拥而至朝这里张望，其中一个男娃，一丝不挂，毫无愧色地站立在人群前，后面一个大一点的女娃追了过来，要他穿裤子，他就是不穿……

四年后初夏的一天，我揣着这幅照片来到了南塬村，没有遇上这个光腴男娃，却见到了这个男娃的姐姐，她当时穿一件印有海南风景的长裤头很是显眼。知道这姐弟俩分别叫菲菲和旭旭。菲菲当年读初三，开学要升高中，所以很用功，暑期一直在窑里看书，而旭旭则去替父亲拦（放）羊了。

不日再次上南塬村，并带着上次拍的菲菲学习的照片去登门造访，菲菲很惊奇地端详着自己看书的照片，流露出满意的神情，而后愉快地给我做了“问卷”，只是她的未来理想是“找一份自己理想的工作”倒是有些太宽泛了。不知她理想中的具体工作是做什么？不过不外乎是远走高飞，找个吃皇粮的工作。

这年初秋，再次来到南塬村，终于见到了四年前光屁股蛋蛋的旭旭，小家伙长高了，也懂事多了，知道招呼我进屋歇脚喝水。我忽然发现旭旭穿的长裤头有些眼熟，略作思索看出当年菲菲穿的那件。我打趣道：“这裤头真凉快。那张光屁股照片怎么没见摆在镜框里？”旭旭抿嘴不说话，菲菲说：“大了，知道怕羞哩，把照片藏起来了。”随后我为穿花裤头的旭旭在山墙下拍了张照片。他使我想起童年那会儿“新老大，旧老二，缝缝补补给老三”的年月。我在家排行老三，确实也穿过缝补过的衣服。以后我在县城偶遇菲菲的身影，知道她为“未来的理想工作”而努力学习。每次来到南塬村，只要是休息日，总是能见到旭旭拦着一群五十余只羊在山沟里吃草。我有时也跟随着一道，让旭旭来回为我赶着羊群，充作模特，也确实拍过一些可看的片子。

2003年4月末，我即将返回原籍，临走前来南塬村，与其说是拍照，不如说是告别。这里的娃娃们都和我成了好朋友。没有见到菲菲，听说到外地学校上学去

了。我语重心长地叮嘱旭旭：“好好学习，我们明年见。”他显得比平日懂事多了，默默地一直送我至村口。2004年7月，事隔一年多，我又一次踏入南塬村地面，可一到村口，就听小伙伴说：“菲菲、旭旭家搬到北京去了。”路过他家的门前，见窑门紧闭，窗户纸被风吹开，稀稀落落的一片凄凉。来到旭旭的奶奶家，老人说：“去年底一家就去了北京”，大人外出揽工，旭旭在民工子弟学校就读，菲菲是继续读书还是已经实现了“找一份理想的工作”的愿望，不得而知。“今

年过年一家人都没有回来，只来过一次电话”老人念叨着。“知道在北京什么地方，有地址和电话号码吗？”我追问道，“不晓得地址，也不知道人家在做什么！”老人没好气地回答。诚然，如果不是贫穷，如果黄土地里能刨出娃娃们的学费，能刨出娃娃们的未来，他们能撂下祖祖辈辈留下来的土地，离乡背井，来到人生地疏的都市里去谋生？茫茫人海、芸芸众生，若大的北京城，我到哪儿去可以找到这姐弟二人呢？

何媛媛来信 ②1

「春聯(しゅんれん)」の話

hé yuányuán
何媛媛

月日の経つのは、なかなか早いですね、あっという間にまた年末になってしまいました。スーパーでも、お正月用品が色々並び始めました。お正月で一番目に付くのは綺麗に飾られた様々な門松です。門松は、日本のお正月に欠かせない飾り物ですが、中国でのお正月のシンボルは「春聯」です。

皆さんもご存知のように、春聯は、中国の旧暦のお正月(春節)に玄関の両側に貼られる、目出度い対句を書いた赤い紙です。中国文学の独特な形式の一つといえるでしょう。

お正月に「春聯」を貼るのが、何時から始まったのかはまだはっきりしていませんが、千年前の漢の時代では、「桃符」と呼ばれる魔よけが使われており、「桃符」は「春聯」の原始的な形といえます。

古い言い伝えがあります。東の海上に、鬼の住む山がありました。そして、その山には鬼のお城があり、その城門のすぐ傍にとっても大きい桃の木がありました。神荼、郁垒という腕っ節の強い兄弟は、鬼をよく成敗し、年末には城門の両側に立って、悪いことをしている鬼を見つくと、葦縄で縛り、虎に食べさせました。それは、お百姓を喜ばせましたが、しかし、悪鬼は大変多く、兄弟二人だけで家々を守るのはとても無理でした。そんな訳

で、桃の木で神荼、郁垒二兄弟の像を彫り、大晦日の日に葦縄と一緒に玄関に掛けるようになりました。けれども、像を彫る事も大変ですし、難しいというので、ついに兄弟の絵と名前だけを桃の木に書くようになったということです。それが「桃符」のいわれです。

宋の時代、人々は、桃の木の板に目出度い言葉を書き始めました。桃の木による魔よけの意味もありますし、美しい願い託すという気持ちもあります。そして、その後次第に赤い紙に對句を書いて貼るように移り変わってきました。

この物語の桃の木と、葦縄は私の興味をそそります。というのは、日本の民話の「桃太郎」と、神社や、お正月飾りでよく見かける注連縄しめなわを思い浮かべるからです。鬼退治をした「桃太郎」と「桃の木」や「神荼、郁垒」、「魔よけ」の力があるといわれる「葦縄」と「注連縄」、その中にどうやら共通するものがあるのではないかと思います。

何媛媛：本名、何向真。

山西省出身。山西大学で日本語及び日本文学を専攻し、卒業。来日して以来、地域の国際交流活動に力を入れ、古箏と中国語を教えています。町田市能ヶ谷町在住。



10月号より、「わんりい」HPに新しく周路先生のページを加えました。11月の夢広場関連事業として開催された写真展「世界を知ろう！我々は皆、地球人」に、はるばる中国から送られてきた黄土高原の人物写真なども掲載しましたのでどうぞご覧ください。今後も、おたよりには掲載できない直送の写真などを加えて充実してゆきますのでご期待ください。尚、アドレスが <http://wanli.web.infoseek.co.jp/> に変更されました。

白い雪山に囲まれ、きれいな湖のほとりに高山植物が咲き乱れるこの世の理想郷、それが香格里拉だとジェームズヒルトン作の“失われた地平線”のなかで描かれている。しかし、彼はそのような地を訪れて知っているわけではない。

オーストリア系米国人の植物学者ラック博士が70数年前に珍しい植物を求めあちこち歩いた時、出会った素晴らしい感動の土地を“シャングリラ”と名付けて発表した報告を基に小説化したものであるらしい。映画化され、アカデミー賞も受賞し、一気に有名になった、シャングリラは英語の辞書にも登場することになった。

何故、シャングリラという名が登場したのか、一寸考えてみたい。チベットには古くから知れ渡った言葉として“香巴拉”(シャンバラ)という言葉があった。これはチベット人が求める不老長寿の楽園である。博士の耳にこの言葉がシャングリラと聞こえ、シャングリラと表記したのではないかというのが有力な一説となっている。ちなみに香格里拉はこのシャングリラの中国での当て字である。浅学の私の説明が間違っ



ていたらご容赦いただきたい。

博士はそれが何処なのか特定していないので、この香格里拉は一体何処にあるのか長く人々に関心事となってきた。ラック博士が足跡を残した所ならどこでも香格里拉の可能性はある。先ず中甸が真っ先に“香格里拉”

市と改名して名乗りを上げた。背後に梅里雪山を控えてはいるものの、ここが香格里拉だとは信じがたい。その後、四川省の稻城の奥、牛絨牧場が“最後の香格里拉”として知名度をあげている。仙乃日を始め未登の三座に囲まれた牧場は確かに有力な候補地とはいええるが確証は無い。テレビの番組で、香格里拉探訪として雲南省のどこかを放映していたが、香格里拉の定義からはほど遠い番組であった。

四川省の措普沟には博士も入っており、措普寺の僧侶との交流があったとの書類が寺に保存されているとの発表は中国のジャーナリスト間で物議を醸し出したようだ。その真偽は別として、当地は未だに“仙境”と名乗る程度で遠慮がちだが、景観は香格里拉を名乗るに相応しいと措普沟を訪れて強く感じた。

▶理想郷への旅立ち

10月19日一人で成田を飛び立った。成都の空港で黒のクラウンに赤い標識灯をつけた警察の幹部車に出迎えられ、翌日には早、私と烏里烏沙さん、運転手の3人は川蔵公路にパジェロを乗り入れていた。甘孜洲の州都、康定を経由し、2日後には当旅行の実質的出発点である甘孜に到着。当初の計画では、地図上の岡嘎山の存在を確かめて卓達山口を越し白玉へ入る。ここで麦曲を遡行し雀児山の裏側を探索、そこから地図上でもハッキリしない道を南下して、措普沟に入ろうというものだった。

出発前夜から雪がしんと降り始め、朝になっても止む気配は無い。徳格に抜ける雀児山口は既に交通不能との情報が入ったが、卓達山口の情報は不明で、どこまで行けるか不安ながらジープに荷物をのせ出発した。

雪はどんどん深くなりトラックも所々エンコしていた。トラックの踏み跡は滑りやすく最細の注意が必要だが、チベット人の運転手はスノータイヤもチェーンもなしに巧み

に4駆を駆ってゆく。強風で真っ白な4300米の山口(峠)に着き、しばらく様子見をするが、雪は全く降る手を緩めてくれない。このまま白玉までは何とかなっても、未知の措普までの道が果たして通れるかどうかリスクが大きいので、一旦甘孜に引き返すことにした。甘孜に戻ると、これまで何度か顔を合せたことがある地元のチベット人ガイドの膨氏と会うことができ、昼食の火鍋をつつきながら情報交換を行った。このあたりの火鍋は肉より臓物が多く私は口に運ぶのをしばし躊躇する。彼は仕事柄最近パジェロの新車に買い替えたばかりとのこと、いろいろな新情報も貰えた。

その晩と翌朝自宅に招かれ、地図上に表記の岡嘎山については彼も彼の父親(元軍の幹部)も聞いたことはないと言う。あとで手に入れた新しい四川省の地図や甘孜州案内図には、岡嘎ではなく貢岬日と変更されているのが判った。もっとも岡嘎と発音は似ているが、地元でさえ、まだ山名が確定していないくらいこの山域は未開発という証拠だら

う。夕方、あまりの寒さで厚手のキルティング着を買いに行ったが、同じものが80, 100, 120, 150元と店によってまちまちで、1日に3人客があれば生活はできると言われる中国人の商魂の逞しさを改めて味わされた。

計画変更で、今回は理塘經由で措普沟に入ることになり、翌日も降り止まぬ雪の中を新竜に向かうが、6月に通過した時とさほどかわらぬ速度で切り抜けられた。今回は新竜に泊まり、死刑執行の判決場面を体験したりしたが、今回は理塘まで足を伸ばさなければならないので、昼食もそこそこに出発。雪もようやく小降りとなり砂利道を快調にとばす。

雅江への分岐を過ぎてしばらくすると、この前建設中だった仏塔群がようやく完成しつつある。こんな辺鄙なところにその日暮しも大変な貧しい人達が資金を集めて進める大事業にはその信心深さにただただ脱帽するのみだ。峠道へ入る少し手前の部落は夏の大洪水で道路は完全に流失、家屋の損害も激しく、仮の道路は水害を免れた家々の間を迂回している。ある家の前まで来ると、通路に大きな丸太を置いて女が二人立っている。猫の額のような畑の中を臨時通路にされ生活が成り立たないと訴えている。鳥里さんと運転手がかわるがわるに彼女らをなぐさめ、最後はバナナ1本と5元でしぶしぶ通過を認めさせた。

峠へ道は、積雪はあるものの、理塘から峠越えの四駆が降りてくる。意外に容易に4,300米の峠に立つことが出来た。真っ白な牧場に転々とヤクが展開し、一寸した絵になる風景だ。温泉を通過し、理塘街中から少しはずれた名門家族が経営する民宿に転がり込む。早速大きいモモとバター茶を振舞われた。

食料を仕入れ、ハルピン餃子と手打ちうどんを平らげて理塘神山(索絨)のピラミッドを過ぎる頃から天気は回復に向かってきた。しかし今日は未だ雲が多く、マナスルの内田昌子さんのご夫君が名付けられたジャヌーこと扎弄岬究(5,780米)の容姿は全く姿を現してくれない。

つるつるの上り坂を慎重に上り詰めると、双子の海子湖が、現れる。背後の山は未だ半分雲の中で、未登の夏寨はまったく所在がわからない。

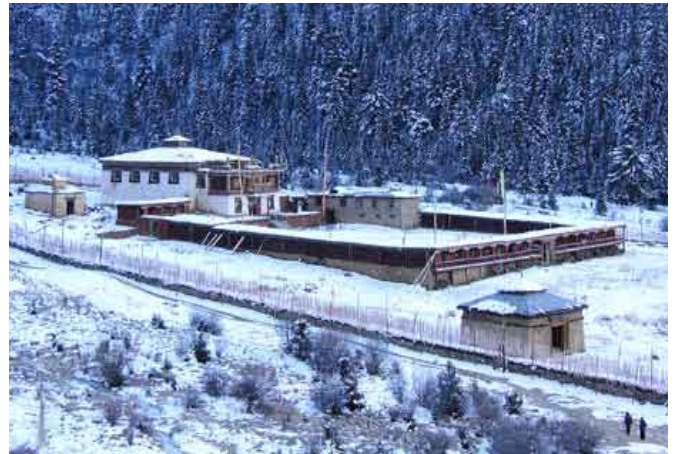
ここから措普沟の分岐点までは胃袋が逆さになりそうだった。現在トンネルと高架橋の工事が進んでいるので、これが完成すれば快適だろう。

分岐点の一膳飯屋のおやじから措普沟へ入った英国人はもう降りたが、オーストリアの登山学校のインストラクター2人が20日間の予定で、処女峰夏寨の初登頂を狙っているとの話を聞いた。ここから措普牧場まで45キロだが、今日は4～5時間かかるぞと言われた。

途中で写真撮影などしたが、牧場の入り口まで本当に4



雪の峠のヤク牧場



シャングリラ発見の植物学者・ヨーセフ・ラック博士滞在した措布寺



措布溝の山々

時間かかってしまった。しかし真っ白な扎金甲博の6,000米近い峰峰が眼前に現れた時、思わずこのような場面で中国人が口にする“拉索(ラッソウ)”が口から飛び出した。

雪で道路がわからないが措普寺の方向を目指して進むうち、つるつるの斜面ではさすがの四駆ものた打ち回り、一時はどうなるのかと思った。ここをなんとか乗り越えいくつかの渡渉のあと湖のほとりの樹林帯に入り、夕暮れ寸前に寺に着いた。寺では若い僧が出迎えてくれ、誰も居ない宿坊の二階に通された。シーズン中訪れる客のために床に寝具が何組か用意されている。彼は欧米人は泊まったが、日本人を見るのは初めてと言う。真っ暗になると、大きな部屋の真ん中にはソーラー発電の電灯が一個だけつけられた。こんな山奥では期待していなかっただけに心が温

かくなった。

夕食は僧侶が用意してくれた生煮えの飯に油でぐちゃぐちゃの野菜炒めと骨付きヤク肉のスープ、それに茹でたジャガイモ。腹をこわしそうなので、中国産のカップラーメンとじゃがいもを腹に詰め、不足部分はりんごを齧って夕食は完了。

寒さが一段と増し、早々に寝袋に入ると、昼の疲れかすぐに寝入ってしまった。夜半、野外トイレに立つと外は満点の星空。明日は快晴間違いなしとの興奮覚めやらずそれから朝まで長い長いとうとうと寝が続いた。

朝一の写真に期待して寒風に身をさらしたが、湖からの上昇気流でガスが立ちこめ視界が悪い。少しずつ薄れるガスと根競べをしていたが指先がちんちんと痛い。

生飯に残りのヤクのスープを温めてぶっ掛け飯の朝食後、寺の背後に登ると、未登の秀峰夏塞が頭を出してくる。裏山はぐるりと岩峰群に覆われ、近くにドリューに似た岩峰がそそり立っている。陽光に少し寒さも和らぐ。世話になった僧侶に別れを惜しみ湖まで樹林帯を進む。真っ青な湖面を想像していたが、湖面は灰色に反射している。しかし背後に雪峰を背負って写真のポーズを取ってくれた。

昨日の渡渉点はどこも2～3センチ位凍結しており、頼もしいわれらの四駆はばりばり音をたてて砕氷船さながら直進する。昨日、間違っって少し進んだ旧鉱山への道は、現在夏塞村までの延長改修工事が進められていた。

(全ての写真提供：鳥里烏沙)

ラオスの山からだより VI <太郎の子ども図書館を作りたい③>

▶ 安井清子さんからの、Eメールメッセージ ◀

安井清子 ラオス 山の子ども文庫基金

再び、ラオスの山からです。

寒い。ラオスの季節が、雨季と乾季だ・・・なんて誰がいったのでしょうか？ピエンチャンでは、今頃ほとんど雨が降ることはないけれど、ここノンヘートでは、1週間のうち3～4日は霧・霧雨。そして、後は少しだけ晴天。そんな天気が続いています。家の中と外はほとんど寒さが変わらないので、家の中でも外でもおなじ格好をしています。

今、村の人たちと少しずつ作業をはじめています。子どもたちと、藁を背負いに行ったり、村の人々に竹を割ってもらったり・・・(これら土壁の材料)・・・まだ、積極的に関わってくれる人は一部だけど、頼れるな・・・という人たちも出てきました。また、やっと、材料の木材のめどもついて、少しほっとしています。木一つにしても、森から切り出してきて製材してもらって、はじめて使えるわけです。

豚肉も、豚がビエ～ビエ～言いながら命を落とすのを見聞きして、はじめて食べられるわけですし、(と言っても、自分では全然、鶏も豚も、小鳥ですらしめられないです。一人で、このあたりで生き延びられないでしょうが・・・)、何でも、始めから関わるのは大変だなあ・・・木にしても豚にしても、自然の命をいただいてしまうわけだなあ・・・とつくづく感じる日々です。

さて、本当なら、もっとバシバシ活動が進んでいるつもりでしたが、本当に霧の中で一步一步という感じです。こんな状況ですが、心強い日本の応援隊の人たちがいるので、やっぱり、どうしてもがんばらなくては・・・と思っています。

そう、みなさん、どうぞ、1月7日の、「ラオス山の子ども文庫基金支援コンサート」に、ぜひぜひおいでくださ

い。おおたか静流さんの歌声、とてもとても素晴らしいです。いろいろな人のつながりから、このコンサートが開かれることになったのです。

私は今、ラオスの山奥にいるから、当事者なのに、お手伝いできないのですが、いろいろな人が応援してくれています。私も、そのコンサートには戻って、ご挨拶させていただきます。

「ラオス山の子ども文庫基金」支援コンサート

独唱 オオタカ静流

ゲスト：程農化(二胡・高胡演奏家)

2006年1月7日(土) 13:30(開場12:30)

於：池袋・東京芸術劇場小ホール 1



私たちは、子どもたちが絵本やおはなしを通して、未知の世界への扉を開き、心の世界を広げていくことができる場所、同時に、自分たち民族に伝えられてきた伝統やおはなしにあらためて出会うことができる場所、そんな子ども図書館を作りたいと思っています。

(安井清子)

●お楽しみコーナー：12:30より、ロビーでラオス・モン族の美しい刺繍小物などを販売します。

▶前売り：一般4000円 小・中学生2000円 前売りのみ
▶主催：Mother of Earth 協賛：B4-Records/おおたか静流
▶問合せ&予約：TEL/FAX 03-3706-7325(野口)
E-mail jediton@k7.dion.ne.jp
http://www.7a.biglobe.ne.jp/~laosyamanoko

ピースボート105日間の旅 X (最終回) 〈弱者にはそれほど優しくなかったピースボート②〉

木之内せつ子

何らかの薬を毎日服用している者にとって、突然もう一種類薬が増えるとなると、かなり過敏に反応してしまう。自分が今飲んでる薬との飲み合せで、問題はないのかと不安になる。

乗船前に、マラリア予防薬のことについて書いてあったのを読んではいしたが、希望者は船内で有料で手に入るくらいにうけとっていた。ところが、横浜出港1週間後、船内で“マラリア予防に関する説明会”が開かれ、ケニアがマラリアの流行地域であるということから、かなり強制的に服用を勧められた。そして、その説明会があった日とその翌日、診療室のドクターとの相談時間が、1時間ずつ合計2時間設定された。その時間になると、診療室前の通路は長蛇の列ができた。船内に風邪が蔓延していたときだったので、風邪薬との併用は大丈夫なのか、と心配で相談にきた人も加わり、乗船客の1割以上が診療室を訪ねていたと思う。

私は8種類の薬を持って列に並んだ。「心臓の薬を飲んでいます」と言ったとたんに、「では別の薬を」と、毎日服用のマラリア予防薬ピブライシン(普通の人は週1回7週間服用のラリアム)を渡された。既に32日分が袋に入って用意されていた。私の持参した薬など見てもくれなかった。診療室に入って薬をもらって出てくるまで、3分ほどだった。そしてモンバサ(ケニア)到着前日の薬を飲んだ初日、私はその薬の副作用の下痢・嘔吐・悪心に苦しんだ。ドクターを責めるつもりはない。100人もの相談者を2時間でさばくには、そうせざるをえなかったのだろう。でも、全員が飲むことになるとわかっていたら、乗船前に主治医に相談して自分に合った薬を用意できたのではないかと思う。

過敏性大腸炎で下痢と便秘を繰り返す体質の私は、ロペミンというかなり強力な抗生物質を持っていた。テンダー(艇)に移り上陸したイースター島、滞在時間は約3時間、駆け足でモアイ像を見て、船着場近くで昼食の弁当を食べた。トパーズの厨房で朝作られて、運ばれて置いてあったものが、午後1時ごろ配られたのだ。あまり食欲はなかったが、半分くらいはビールを飲みながら食べた。食べ終わるとすぐに召集がかかり、テンダーに乗りトパーズに戻った。それから2時間後、激しい嘔吐、その数時間後から激しい

下痢に翌朝まで苦しんだ。いつもの下痢とちょっと違う症状とは思ったが、食あたりとは思わなかった。船での生活には慣れてきたが、気づかぬうちに疲労が蓄積していて、こんな形ででてきたのななくらいに思って、ロペミンを飲んだ。

食事に顔を見せないからと、心配してキャビンを訪ねてくれた友人に、飲み水を汲んできてもらって、やっとひと息つけた。そして1日寝込んだだけで起き上がることができた。数日後、私と同じ症状で診療室に通院した人がかなりいると聞いた。しかし、ドクターは弁当が原因とは認めなかったという。後日、私は食事などで隣り合わせに座った人達20人くらいとそのことを話題にした。症状に軽重はあるが、下痢や嘔吐のあった人が半分ちかくいた。そのうちの何人かは診療室に通院し、何人かは私と同じように自分の持ってきた薬を服用し、また一口食べて「これは変だ」とすぐ止めた人、もちろんいつも通り美味しく食べたという人もいた。

実はその2ヶ月前にも、船内での洋上運動会ででた弁当で同じようなことがあったそうだ。その時も診療室側は、弁当と食あたりの因果関係を認めなかったという。食あたりの原因が船の厨房で作った弁当だと認めてしまってレストランが営業停止になったら、この旅は続けられなかったかもしれないが…。でも運動会のときに1度あったのなら、次に弁当をだすときには、長時間保存可能な食材を選び、なるべく食べる時間ぎりぎりに作り、直射日光の当たらないところに置いておく、くらいの配慮があってもいいのではなかったか。配られた弁当には、「2時間以内にお召し上がりください」と書かれた紙がはさまれていたが、食べる側の手に渡る前の、作って保管し配る側のほうに問題があると思うのだが…。

ピースボートに乗船するにあたって、私が一番心配だったのは船酔いだった。船のレセプションで自由にもらえるトラベルミンでは、私には効かないことはわかっていた。事前にあちこちに相談し、24時間持続性のある市販のアネロンと、病院からのポララミンという薬を用意した。

横浜出港2時間前に服用し、神戸までの大揺れの中で、夕食もきちんと食べられた。持参した酔止め薬の



モアイ像



下船後のピースボートは神戸へ

効果を早々に確認できたのが、105日間の船旅を続けられる自信につながった。レセプションに用意してあるトラベルミン(持続性6時間)では、酔いが治まらない人もかなりいる。48回も船を出しているピースボートなら、もっと別な酔止め薬を考えてもよいのではと思う。後で知ったのだが、船内の売店では、センペアという持続性12時間の酔止め薬が売られていた。

ここまでピースボートを非難することばかりだったらと書いてきたが、最後は、ピースボートが弱者に優しく話で締めようと思う。食あたりで苦しんだあのイースター島だが、この島は空から入るのが普通で、3万トンクラスの船が着岸できる港はない。船は沖に停泊し、私たちは救命胴衣を着けて、8人乗りのテンドーボートに乗り移り上陸することになる。上陸説明会で配られたテンドーボート整理券の順番で上陸し、またその順番で船に戻る。島での滞在時間が、全員同じになるようにするという。乗船客の大半が“ゆったりイースター島”というOPに申し込んでいた。高波や

風向きでなかなか上陸地点も決まらず、何時間も待たされ、私の整理券は2日目の上陸になり、滞在時間も3時間ちょっとだった。A夫妻や高齢のDさんたちは、上陸できたのだろうかと気になっていた。後日、Aさんに会ったときにきいてみると、彼らはピースボートの計らいで、1日目の最初に上陸できたという。だから、島滞在時間も5～6時間はあり、モアイ像だけでなく、ハンガロア村、オロンゴ岬、カノカウ火山のカルデラ湖も見ることができたという。そして何よりも良かったことは、1日目に上陸した人は、“食中毒”にならなかったということだ。

ピースボートもときにはそんな優しいことをしてくれるのかうれしくなった。こんなちょっとした弱者への配慮が、もっともっと増えていけば、ピースボートの旅も楽しくなり、リピーターも更に増えるのではないかと思った。

1年もの長きにわたり、私の拙い文をお読みいただきありがとうございました。

♪♪ 笑顔が美しくなる ♪♪

「中国語で歌おう会」 会員募集中!

明るく楽しい中国人歌手・趙鳳英さんと歌いましょう!

1月の講座 1月20日(金)

19:00～20:45

麻生市民館・視聴覚室(新百合ヶ丘駅下車北口3分)

●1月の練習曲:「小草」(歌劇「芳草心」より)

指導: 趙鳳英さん(中国四川省出身歌手)

*体験参加を希望される方は、'わんりい'事務局へお問合せ下さい。

*ご参加される方は録音機をお持ちください。

問合せは、'わんりい'事務局へどうぞTEL/FAX: 042-734-5100



スピーカーが壊れるか耳が壊れるかの先を競うかのようにつたたましくアフリカの音楽がそこら中から鳴り響く。そこへ後ろから体の何倍もある袋を頭に載せてバランスよく小走りで駆けてくるムココテーニと呼ばれる運び屋さんの「邪魔だよ、どいてどいて」という声が聞こえる。まぶしく光る色とりどりのありとあらゆる商品の前で、値切り交渉のやり取りがそこら中から聞こえてくる。ショッピングはあまり好きではないが、マーケット散策は私の趣味のひとつである。しかも一文無しで行くただの冷やかしなだ。

ケニアの首都ナイロビには大小無数のマーケットがある。どこの町や村に行っても必ずあるマーケット。朝市やある特定の日だけ開くマーケット。ある商品だけに特化したマーケット。そして大都市の消費を支える迷路のような巨大マーケット。名前もないような村の小さなマーケット。そしてブラックマーケット。そこには、そこで暮らす人々の生活が溢れている。何を食べて、何が売られているのか、物価はいくらなのかの情報が溢れている。買うほうも売るほうも真剣だ。そしてなにより飾ることのないおしゃべりが楽しい。マーケットの中には必ず食堂もあり、看板もメニューもないが抜群の新鮮さと味にひかれて何度も通ってしまう場所がいくつかある。

たいていは、だだっぴろい場所にトタンや木を並べて作った簡単なお店の作りであるが、何百、何千もの数のお店がひしめき合い、道幅は1メートルもない。そんな場所に、朝一番の農作物を載せたトラックが横付けされていく。



観光客のお土産物屋さんの職人さん

キャベツやバナナを満載して数時間かけて地方から運ばれてくる。アフリカといえども、ナイロビには土地を持たないサラリーマン世帯やスラムに住む人々の集まり。日々の食生活は地方の農作物に支えられている。

マーケットには卸し業者たちがひしめいている。大



ナイロビのマーケットに向う車の渋滞



ナイロビにあるカリヨコマーケットの正門

量に仕入れ、それぞれに散らばるナイロビのお店や住宅街そして郊外の町や村へ運んでいく。買ったものは、ムココテーニによって車やバスのところまで運ばれてゆく。穀物、魚、農作物、肉、日用品、衣料品等の品物別それぞれにマーケットが機能している。生産者の手から運送業者によって運ばれ、マーケットを介して卸し経て小売りへと、モノがきちんと流れていることに私は驚いた。そこには、紙幣が流通し、経済が営まれている。植民地からの独立をへて46年。経済は確実に歩き始めている。モノとヒトの流れにそんなことを感じる。

そんな楽しい場所マーケットであるが、そこから見えてくるアフリカの経済の問題も深刻である。アフリカほとんどの国が農業国であることから野菜や果物、穀物の自給率は高い。当然自国産のものがほとんどであるが、なかには外国産のものもある。そして値段を知って知って驚いたことに外国産のほうが安いことがある。砂糖や米はケニアでも多く生産されているにもかかわらず、ブラジルから安い砂糖が売られている。タイからの安い米が売られている。ここにも貿易の不均衡は押し寄せている。政治的な圧力を前に自国の生産者の厳しい状況。政府が守ってく



カバンを縫う職人さんたち



ムラティナという蜂蜜酒の売られている様子

れることを期待できない、期待していない生産者の苦悩はずっと続いている。特に、日用必需品（石鹸、プラスチック製品、紙等々）や衣料品・靴は圧倒的に海外からの輸入品である。MADE IN CHINA, TAIWAN, JAPANの文字が躍る。

衣料品を例にとってみると、それぞれの民族は民族衣装を着ていた時代を過ぎて現在は洋装をしている人が圧倒的に多い。スーツにネクタイ、ワンピース、ジーンズ等西洋化している。しかしこれらの安い輸入品のせいで自国の衣料メーカーが育たないのは事実だ。価格で圧倒的に輸入品に追いつけない。

例えば、ジーンズもスカートも100円ほどで手に入る。スーツやワンピースは仕立ててもらうのが主流であるが、それでも安い既製品に押されそうな勢いである。消費者も安いほうがいい。そうして、地場産業は発展せず、雇用を創出できず、肥えていくのは輸出入業者ということになる。どんな地方に行っても、輸入品が手に入るのは(MADE IN KENYAを見かけないのは)このためである。

“MADE IN KENYA” を育てていく試みはグローバル化している世界の経済の流れにおいては時代の流れに逆行しているように見える。しかし世界中のものを輸入して、依存して生活している日本人の私からみると同じような道を進んでいるような気がして、元に戻るなら今なら間に合うのだろうかと思われて仕方がない。

niān huā wēixiào

松本杏花さんの俳句《拈花微笑》より

春節や汾酒の甕逆さまに

chūnjié jìn kāiyán
春节尽开颜

chàngyǐn fénjiǔ bēibēi gān
畅饮汾酒杯杯干

dào zhì kòng jiǔ tán
到置空酒坛

季语：春节，春

我们可以想像出山西老乡过春节时饮酒的酣畅场面。据说，我国最早的酒乡就在杏花村地区，后来酿酒师外出，凭自己的高超技术，采用当地名水，似及利用当地的气候条件，才酿造出西部的其他品牌的名酒。此说真伪无需考证，但说明了杏花村的酒文化历史是相当悠久的。

只要看看门前倒置的酒坛，就知晓他们喝下了多小酒。

春の門福の一字倒に貼り

chūnlái qìxiàng xīn
春来气象新

yīgè fú zì yī shàn mén
一个福字一扇门

dào tiē fú dào lín
倒贴福到临

此句写的是过年时贴春联的喜庆场面。看到倒贴的“福”字，作者迷惑不解，以为是贴错了。但又觉得这种错误不会如此普遍，怎么家家户户都是这样呢？经询问，方知这“倒”与“到”

同音，是人们利用谐音祈求“福到了”所使然。

已经司空见惯的事，在第一次发现时却是感到新奇的。

チベット族の聖なる山・四姑娘山

大川健三(中国四川省四姑娘山自然保護区管理人)

昨年夏、'わんりい'メンバーの有志9名が、大川健三氏の案内で、四姑娘山トレッキングとキャンプを楽しみました。その折の様子は、'わんりい'9月号とHPの写真ギャラリーで紹介しましたので記憶にある方もいらっしゃるかと思います。この度、大川健三氏より、四姑娘山の概要や楽しみ方についてご紹介いただきました。

四姑娘山ってどんなところ?これから行ってみたいと思われる方も体力が…と思われる方もきっと「四姑娘山」とその周辺のイメージがはっきりする事と思います。それでは早速、四姑娘山保護地区への旅をして見ましょう。

四姑娘山自然保護地区の概要

四姑娘山(主峰6250m)は中国西南部の北緯31度・東経103度付近の中国四川省アバ藏族羌族自治州小金県日隆鎮に在ります。四姑娘山は遺伝子の宝庫と言われる横断山脈の東部に位置します。チベット文化圏の東端でも有ります。同じチベット文化圏で有りながら水と緑に恵まれたこの地域は西部や中部のチベットとは異なった豊かで優しい印象を与えます。この地域に1000年以上前から多くのチベット族が住んでいます。主な生活基盤は牧畜と農業です。彼らの生活形態とこの地形が調和して美しい自然を形成しています。

成都から日隆までは公共バスで7時間で、小型車や高速道路を利用すれば4時間です。東京や大阪から四川省の成都までは定期の直行便で5時間です。日隆には多くのホテルや宿が有ります。

四姑娘山自然保護区は海子溝、長坪溝、双橋溝、巴郎山を含みます。海拔高度は3000mから6250mで面積は1375平方kmです。ここはパンダが生息する臥龍自然保護区の西側に隣接します。中生代の造山運動と新生代の火山や氷河の活動によって急峻で複雑な地形を形成しました。懸垂氷河や氷床が現在も残り、山上の海子*が多い所です。狭い地域に温帯、寒帯、永久積雪帯の3つの気候帯が同居しています。降水量が多く年間1000mm前後です。ここに山や谷や湿地や海子や森林や草原が分布して多種多様な植物が生育し野生動物が生息しています。

*海子=湖沼のこと

下記のウェブサイト"蜀山女神"に
四姑娘山の写真が有ります。

<http://www.eastalps.com/scholaweb/conts.htm>



Wish You All the Best in 2006

日中文化交流市民サークル<わんりい>の皆さま

Kenzo Okawa
Four Girls Mountains Nature Reserve

■野生植物について

四姑娘山は多種多様な植物を観察できる地域です。ブルーポピーや他の美しい花や珍しい花が沢山咲きます。エーデルワイスの類は雑草のように咲き誇ります。蘭やユリの仲間、薬用植物も多く見られます。

4月末から桜草の仲間が咲き始め、10月まで多くの種類の花が咲きます。石楠花は5月から6月、大きな桃色の花を咲かせる *Sinopodophyllum hexandrum* は5月末から6月、四姑娘山を代表するブルーポピーは6月下旬から8月中旬に掛けてあちこちで咲きます。



Meconopsis simplicifolia / Blue-poppy



Sinopodophyllum hexandrum

四姑娘山自然保護地区内の、長坪溝と双橋溝には針葉樹と広葉樹の混合林が多く有ります。長坪溝では山桜の一種が6月にあちこちで咲き8月に実が熟します。9月末が紅葉、10月後半が黄葉のピークです。注) ブルーポピーの仲間では花が黄色い種は4月末から7月中旬まで、あちこちで沢山咲きます。

隣接している夾金山森林保護区でも同様な植物を観察できます。

■野生動物について

野生動物は四姑娘山自然保護区と隣接地域の間を往来しています。臥龍自然保護区の深部に隣接する長坪溝上流に野生動物が比較的多く居ます。野生動物では有りませんがヤクは至る所で見られます。

▶低地(～4300m前後)の野生動物

谷間の草地や森林に生息する野生動物です。人が容易に接近できる場所で大型の獣は殆ど居ません。

20年前には熊や鹿が居ましたが、現在は殆ど見られません。雪猪(ヒマラヤ・マーモット)は多く居ます。稀に土猪子やイタチの類を観察できます。リスや鼠の類は多く居ます。鳥類は多く居ます。血雉は四姑娘山を代表する美しい鳥です。蝶やトンボ等の昆虫類も多く居ます。蛙やトカゲなどの小型の両生類や爬虫類は多く居ます。魚類は小型の裸鯉の仲間が居ます。

▶高地(4300m前後～)の野生動物

山上の岩場や草地に生息する野生動物です。人が容易に接近できない場所です。

岩羊は四姑娘山を代表する獣で、夏の間4300m以上の岩場や隣接する草地に生息します。冬は積雪のため4000m前後の草地に生息します。長坪溝と海子溝に生息する岩羊の総数は500頭前後です。雪猪は多く居ます。雷鳥の類も多く居て時々山上の海子で子育てを観察できます。稀に元首絹蝶などの高山蝶を観察できます。

(次号は、四姑娘山自然保護地区の楽しみ方を紹介)



Marmota himalayana / Himalayan Marmot

— 自己紹介 —

中国四姑娘山自然保護区管理局 特別顧問
大川健三

中国 四川省 アバ藏族羌族自治州 小金県 日隆鎮 長坪村在住です。国籍は日本で1950年生まれです。

NECでコンピュータの自動設計システムを長く開発して特許や発明賞を取得しました。2000年3月に退職して2000年6月から現職です。主な趣味はネイチャーフォトで、登山やパラグライダーも趣味です。休暇を利用して世界各地の辺境地や山地などを旅行しました。

2003年12月から1月に掛けて‘わりい’会員の方々が丹巴へ来られたのが切っ掛けで‘わりい’の皆さんとのお付き合いが始まりました。2005年7月には‘わりい’会員の方々が四姑娘山へ来られてご案内させて頂きました。

座右の銘：「人生は感動の旅路」

HAT-J (Himalayan Adventure Trust of Japan)、
WWF-J (World Wide Fund for Nature of Japan) 会員

— 馬頭琴演奏者、チ・ブルグッドさんのお話と演奏の会 —

草原のチェロ・馬頭琴って どんな楽器？どんな音色？

モンゴル族の民族に受け継がれてきた楽器・馬頭琴。どうして馬の頭が付いているのでしょうか？その物語は、内モンゴルホルチン地方の馬頭琴に纏わる民話「スーホの白い馬」でよく知られています。

音色は力強く、また複雑な味わいと魅力に富んでいます。楽器の仕組みや、摩訶不思議な演奏のテクニックなど馬頭琴の全てを、在日NO.1の馬頭琴演奏者チ・ブルグッドさんが、素晴らしい演奏を交えてお話し下さるまたとない機会です。

2006年2月19日(日) 13:30～15:30

於：町田中央公民館・視聴覚室

参加会費：1000円

申込み&問合せ：'わんりい' 事務局

*メールまたは電話でお問合せ下さい。

1月より入門コース開催 要予約

— どなたも気軽にご参加下さい! —

於：鶴川市民センター

日：2006年1月9日(月)

時：10:00～ 及び 18:00～

参加費：材料代として500円

講師：中国人画家 満 柏



水墨画 体験会

水墨画の
考え方、
描き方など
やさしく説明!

全ての問合せ&申込み：

TEL/FAX 042-735-6135 (野島)

つるかわ水墨画を楽しむ会

*毎月第2、第4の月曜日、鶴川市民センターで活動中

使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を!

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、使用済み古切手と書き損じの葉書を集めています。使用済み古切手も、沢山集まれば、1kg単位で現金化することができ支援金として使用されるとのことです。

小さくて軽い切手を1kg集めるには多くの方の協力が必要です。'わんりい'の会事務局も、古切手収集の窓口として協力しています。日本の切手、外国の切手など、周りを1cmほど残して切り取り、おついでに折に'わんりい'の事務局にお届けくださるか、田井にお渡し下さい。

— スリランカと私 —

為我井 輝忠

多くの人々からよく「スリランカってどこにあるのか」、「どうしてスリランカに興味を持たれたのか」という質問を受けることがある。確かにスリランカと聞かれても、はっきりと答えられる人は少ないであろう。インドの南端にある、北海道よりやや小さい、かつてはセイロンという名前で、紅茶や宝石で知られた島国だということ、納得する人が多い。

私がスリランカに興味を持ったのはもう15年以上も前のことである。当時この国はシンハラ人とタミル人の間で民族紛争が激化していた時期であったが、私はこのようなことは殆ど知らなかった。ある時何かの雑誌でスリランカの人が「今スリランカでは民族紛争で多くの人が亡くなっている。日本の人々にこのことを知ってもらい、助けてほしい」と訴えている文章を読んだ。大いに興味が引かれ、早速彼に手紙を出した。すぐに返事が来て、手紙のやりとりが始まり、数年後に紛争が一応収まったのを待ってスリランカを訪ねた。もちろん彼に会うことが出来た。

それからは毎年のようにスリランカへ行き、彼と共にあちこちを訪ねて回った。それからというものはスリランカに関する本や文献を探したが、日本では殆どなかった。ある団体に参加したが、満足できるものではなかった。それならば自分でグループを作り、何か助けになることをしてみたいと考えた。それが「日本スリランカ文化交流協会」のスタートであり、1999年の4月であった。

賛同してくれる人も多数加わり、町田を中心に今日に至るまで様々なイベントやスタディ・ツアー、料理教室、映画会等を開催してきた。スリランカカのランブッカナ(Rambukkana)の村には、Tamegai Cultural & Educational Foundationとい組織も出来た。これからが正念場であり、地道に両国の交流を目指して活動を続けていきたい。

日本スリランカ文化交流協会

問合せ先：E-mail: brb35673@nifty.com

URL: http://homepage3.nifty.com/ceylon_1948/